

# うない通信

国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室 ニュースレター Vol.15 2019年11月発行

## 琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金(うない基金)

### 寄附者御芳名

うない基金へのご協力とご厚意に、心より感謝申し上げます。ご寄付いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここに御芳名を掲載させていただきます。(令和元年8月末日現在)

※五十音順に掲載させていただいております。公表を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

●植田 聡様 ●佐野文子様 ●武田昌則様 ●花城梨枝子様

### 寄附金のお願い

うない基金は、琉球大学に所属する女性研究者および女子学生の教育研究活動および人材育成に関する事業を助成するものです。趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

銀行口座振込、または琉球大学Webサイト(<http://www.kikin.iim.u-ryukyu.ac.jp/>)からクレジットカード決済によるお手続きが可能です。

●お問合せ先/琉球大学ジェンダー協働推進室 Email:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp Tel:098-895-8675

## 2019(令和元)年度 4月～9月 主な支援事業

### 第1期研究活動等支援員制度

本制度は育児や介護といったライフイベント中の研究者に教育研究支援として研究補助員を配置し、研究力を向上させることを目的としています。今年度の第1期には10名の研究者が本制度に採択され、12名の支援員が配置されました。

### 国際学会派遣費用補助事業

教授を除く女性研究者を対象に、国際学会等に参加するために係る費用の一部を補助する「国際学会派遣費用補助事業」をおこないました。今年度は3名が採択されました。  
※今年度より通年1回の募集となりました。

### 育児サポート・サービス利用料補助事業

教職員の仕事と家庭の両立を支援するために、育児サポート・サービスを利用する際の利用料の一部を補助しています。今年度は教職員12名が採択され、利用しています。

### 病児・病後児利用料補助事業

教職員の就業および家庭生活の両立を支援することを目的に、病児・病後児保育を利用する場合の利用料の一部を補助しています。今年度は、教職員9名を採択しました。

### 女性研究者介護帰省費用補助事業

本事業は、女性研究者の介護を目的とした帰省に際し、購入した航空運賃の一部を補助するもので、今年度は5名を採択しました。

### 今後の予定

- 英文校閲費用補助事業 11月募集開始
- スキルアップセミナー 11月以降
- 介護セミナー 順次開催予定
- リーダーシップ研修

✿ 本ニュースレターを発行するにあたってご協力いただきました皆さま、誠にありがとうございました。✿



## 国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室

Gender Equality Promotion Office, University of the Ryukyus

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階 TEL:098-895-8675

E-mail:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp URL:<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/>

## 令和元年度 ダイバーシティ推進トップセミナー

令和元年7月22日(月)、琉球大学本部棟第一会議室において「ダイバーシティ推進トップセミナー 昭和から令和へ～働き方改革は昭和的価値観の変革から!!」を開催しました。

本セミナーは、講師に富原 加奈子氏(一般社団法人沖縄県経営者協会 女性リーダー部会長)をお迎えし、学長、理事・副学長をはじめとする本学の大学運営に関わる教職員を主な対象に、本学における女性教職員の活躍、ダイバーシティの推進について、どのように取り組み状況を改善していくかを考える機会とすることを目的に開催しました。セミナーに先立ち、井上 章二琉球大学理事・副学長より挨拶があり、本学の現状や取り組み、課題について述べられました。

セミナーでは、昨年女性リーダー部会がおこなった県内の働く女性を対象とした意識調査を基に、アンケート結果から見える課題として残業や休日出勤等の長時間労働を美德とする価値観や男性主体の組織体制、画一的な就業スタイル等を挙げ、このような昭和的価値観により女性が活躍しにくくなっている現状と、性別に関係なく働きやすい、仕事も私生活も充実させることのできる職場環境を築くために、富原氏が企業において取り組まれてきた働き方改革についてお話しいただきました。具体的な事例として、朝礼や会議の回数および時間の見直し、時差出勤の導入、消灯・施錠時間の設定、ペーパー・データファイリングの導入、社内SNSの導入等が挙げられ、それらにより得られる費用対効果、社員の働く意識の変化についてもお話しがあり、女性活躍のため、組織として環境を整えることの必要性について述べられました。

セミナーには約50名の参加があり、富原氏のパワフルなお人柄、また次々とテンポよく出される興味深い話題に、参加者は熱心に耳を傾けていました。



## 平成30年度 ダイバーシティ推進セミナー

平成31年3月22日(金)、琉球大学文系総合研究棟において「ダイバーシティ推進セミナー 多様性のある社会～スウェーデンからの報告～」(共催:科研費基盤研究(C)「ポジティブ・アクション実効化のための理論的・比較政策的研究」法務研究科教授 矢野恵美)を開催しました。

スウェーデンのウメオ大学より、ルース・マンネルクヴィスト氏(ウメオ大学 社会科学部長)、ヨーレル・グランストリヨム氏(ウメオ大学 法学研究科長)をお招きし、同国における男女共同参画の歴史と現状についてお話しいただきました。

スウェーデンでは国の政策として男女平等が掲げられており、現在の国の議会では男女比率がほぼ等しくなっていること、大臣のうち過半数が女性であること、また1950年代から育児休暇がスタートし、現在の育児休暇取得率は男性も含め9割にもものぼること等が述べられました。質疑応答の際には日本の現状にも触れ、参加者は両国の違いや先進的な取組状況について聞き、理解を深めていました。



## 学校法人くるみ学園と保育利用に関する協定を結びました

琉球大学は平成31年3月18日(月)、学校法人くるみ学園との間において、保育利用に関する協定を締結しました。本協定により、同学園が設置する企業主導型保育事業施設「中城わらび保育園」の受入定員(0歳～2歳)の一部を本学教職員が利用することが可能となりました。

空き状況等、利用の詳細については直接下記連絡先にお問い合わせください。

### 【学校法人くるみ学園 中城わらび保育園】

所在地：〒901-2424 沖縄県中頭郡中城村字上原1066番地10  
 受入年齢：生後57日から2歳児まで  
 連絡先：098-895-5155  
 URL：https://kurumi-kodomoen.jp/warabi-n/about.php



## 平成30年度 スキルアップセミナー

平成31年3月26日(火)、大学本部棟第一研修室において「タイムマネジメント～ワークライフバランスを叶える時間管理法～」を開催しました。

本セミナーは、学内だけでなく学外や家庭でも連日多くの仕事や役割を抱えている女性研究者が、限られた時間の中で効率を高め最大限の成果をあげるための時間の使い方や、行動変容に繋げる時間管理のスキルを学ぶことを目的に開催しました。

講師の四元絵美氏(株式会社インソース)からは、優先順位を明確にした適正なスケジュール管理と、効率を考えた徹底した事前準備についての方法論が述べられ、参加者は頷き、メモを取りながら聞く様子が見られました。また、グループ内の異なる分野の女性研究者同士の交流もあり、終始和気あいあいとした中で進められました。



## オープンキャンパスにおける託児室開設



令和元年7月13日(土)、本学の教職員の仕事と家庭の両立支援のため、初めての試みとなるオープンキャンパスにおける託児室を開設しました。

大学本部棟第一研修室を会場として「西原ふぁみりーさぼーときらきら」さんによる保育がおこなわれ、3名の子どもたちをお預かりしました。

子どもたちはお散歩、室内でのゲーム遊びや工作、おやつ作りなどをして、お迎えまでの時間を楽しく過ごしていました。

## 令和元年度 ジェンダー協働推進室員のご紹介

令和元年度の室員を紹介します。任期は2年間です。

室長	喜納 育江(国際地域創造学部 教授)	室員	遠藤 由美子(医学部 准教授)
副室長	萩野 敦子(教育学部 教授)		照屋 功(工学部 准教授)
	宮城 一菜(農学部 准教授)		矢野 恵美(大学院法務研究科 教授)
室員	野入 直美(人文社会学部 准教授)		眞榮城 智子(附属病院 副看護部長)
	山里 絹子(国際地域創造学部 准教授)		上原 比呂美(大学本部 職員課長)
	與儀 峰奈子(教育学部 教授)		深谷 桃子(ジェンダー協働推進室 特命助教)
	仲宗根 桂子(理学部 講師)		

## 第11回 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡

### シンポジウムに参加して

宮城 一菜(琉球大学・農学部)

令和元年9月20日(金)、九州大学伊都キャンパス椎木講堂コンサートホールにて開催された「第11回九州・沖縄女性研究者支援シンポジウム in 福岡」に参加してきました。

本シンポジウムは、「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(愛称:Q-wea)」に参加する九州・沖縄地区の大学12機関によって、平成21年度より毎年開催されています。今年度は、「女性の活躍推進に向けて～支援から戦略へ～」をテーマに開催されました。

今回のシンポジウムで私が楽しみにしていたことの1つに上野千鶴子氏(東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)の基調講演がありました。基調講演は「生(なま)上野でございます」の第一声から始まり、上野氏の独特のテンポで講演が進められ、参加者の笑いをとりながら、女性の政治や経済の場面での問題、男女平等政策の展開などをとても解りやすく論じられていました。また、上野氏の講演で私が印象に残った言葉は、基調講演最後の参加していた学生からの質問に対する回答で、「何か行動を起こせば必ず敵はできる、けれど、仲間をつくることもできる、敵と味方の両方ができて、味方の方が敵より多ければよいだけ」という言葉です。私がもつ上野氏のイメージは「強い女性」でしたので、この言葉は少し意外な印象を受けましたが、女性学という新領域の学問の研究をおこない、様々な経験をしてきた上野氏だからこそ発信できるメッセージだと思いました。

シンポジウム後半のパネルディスカッションでは、「支援から戦略へ～組織と個人に必要なこと～」をテーマに九州・沖縄地区の11大学の男女共同参画担当理事・副学長がパネリストとしてご登壇されました。琉球大学からは井上章二理事・副学長がご登壇され、大学中枢への登用を見据えた管理運営能力を身につけるための取組みが紹介されました。

普段は栄養士養成の教員として、栄養や健康について教鞭を執っている私にとって、Q-weaのシンポジウムに初めて参加してみて、大学における男女共同参画とは何か、ということに改めて考え、各大学の女性研究者への支援の取組みを学ぶことができた非常に良い機会となりました。



### ★TOPIC★

## 栗原晴子助教(理学部海洋自然科学科)が日本女性科学者の会「奨励賞」を受賞しました。

一般社団法人日本女性科学者の会(近藤科江会長)は、女性科学者の友好を深めて各研究分野の知識の交換をはかり、女性科学者の地位向上を目指すとともに、女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境とネットワークの構築、社会と世界の平和に貢献することを目的に1958年4月に設立され、活動しています。今回、栗原助教が受賞された「日本女性科学者の会 奨励賞」は、広く理系の分野において研究業績をあげ、その将来性を期待できる方で、かつ同会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる女性研究者に対し、今後の活動を奨励するために設けられた賞です。

5月26日に東京の学士会館で賞贈呈式がおこなわれ、栗原助教を含む3名の女性研究者が奨励賞を、2名が功労賞を受賞されました。

### 女性科学者奨励賞を授賞して

栗原 晴子(琉球大学・理学部)

女性科学者の会より、本年度の第24回日本女性科学者の会奨励賞へ選出されたとの連絡を受けた際は、大きな喜びと共に多くの方々への感謝の念、そして女性研究者としての責務を感じた。本受賞の研究「気候変動(海洋酸性化/温暖化)が海洋生物/生態系に及ぼす影響の評価」は、博士の学生のころから足かけ15年に渡って行ってきた内容である。その間、多くの先生方や研究者、仲間、学生さんや研究員、技術員、家族などにお世話になりながら行ってきたが、皆様の支え無くしては、これほどまで長いこと研究を続けることも、また本賞の受賞も無かったと思う。皆様にはこの場を借りて心から感謝申し上げます。

本賞を頂いたことを励みに今後も、様々な仲間や研究者、学生らと共に特に沖縄の周辺に広がる美しいサンゴ礁を舞台に気候変動というテーマを中心に様々な研究に邁進していきたい。それと同時に、今後は研究だけでなく将来の研究の担い手となる若手の育成、さらにはサンゴ礁や海の生物の面白さ、楽しさ、魅力をより多くの人々に伝えられていけたら幸いである。



栗原助教(右から3番目)